Campus Today

松本歯科大学
発行所　学校法人　松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎（0263）52−3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

教育の質の向上をめざしてSD研修会を開催
〜 歌手MISIAを育てた母と姉のファミリーヒストリー 〜

「育児の共有がひらく、家族と社会のこれから」

本学教職員の職務に関する質的向上を目的としたSD（スタッフ・ディベロップメント）研修会が、歯学部・衛生学院の学生に対する特別講演会を兼ねて、7月17日（金）本館7階講堂において、伊藤瑞子先生（医師、医療法人あおばクリニック福岡）と岡　暁子先生（歯科医師、福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長）により「育児の共有がひらく、家族と社会のこれから」という総合タイトルにて400人近い参加者に対して行われた。伊藤先生は歌手MISIAの母親として、岡先生は年の離れた姉としてMISIAの音楽活動を支援し世界的歌手として育てあげられたことにも触れながら熱い思いを語られた。

今回初めて実現した親子講演は、伊藤先生には、育児や家事をこなしながら職業人として小児科医の社会的責任を果たしてきた経験を、長女である岡先生には、母親として歯科医師として、伊藤先生から受け継がれて来られたことを広く訴えてほしいという、中村美どり教授（生化学講座）の考えにより実現した。伊藤先生は「育児の共有から新しい未来へ」の演題で、岡先生は「−Diversity, Sustainability and Branding−を意識した教室づくり」の演題で、それぞれお話しくださった。

伊藤先生は昭和の時代に結婚され、子育てをする中で、医師として男性と同じ仕事をしているのに、なぜ自分だけが家事や育児をワンオペでしなくてはならないのかを医師である夫（伊藤新一郎先生）と話し合い、ご自分と周囲のアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）に気が付かれた。現在、ワークライフバランスがいわれているが、男性はワークとしてケア（介護福祉士や看護師など）はしても、ライフの中にケア（子育てや親の介護）を最初から織り込んでいる人は多くはない。そこで、71歳の時に大学院に入学され「育児の共有」という言葉を提唱し、論文をまとめられた。

岡先生は「七夕の日（7月7日）に女の子を産んで欲しい」とお母様にお願いし、生まれた年の離れたMISIAさんの歌手への道のりをご自身の仕事を続けながら、切り拓いてこられた。今では、妹さんは誕生日にあわせて「星空のライブ」というコンサートを行う日本を代表する歌手として成長された。岡先生はお母様の伊藤先生のお考えを発展させ、ご自身の教室の部下の方々が自分の望む姿に成長することを支えるという領域へと昇華された。

講師の伊藤先生（中）と岡先生（右）、伊藤新一郎先生

講演後には、1歳半の長女と一緒に参加した山上紋子助手（地域連携歯科学講座）、および音楽家の道から夫と同じ歯科医師を目指すことを決心した長尾春奈さん（歯学部第2学年）から、家事・育児と医療人としての仕事の両立についての質問があった。また、座長の中村美どり教授からは、大学の教員が上司と意思疎通を図ることなく、結婚や出産で辞職を選ぶことに対しての質問があった。これに対して、上司からの意識的なこまめな面談がこういった離職を防ぐのではないかという示唆を受けた。

最後に講演されたお二人に花束が贈呈され、お二人の益々のご活躍を祈り2時間にわたる講演を参加者に感銘を与えつつ終えることが出来た。

（学長　宇田川信之）

育児経験を通して質問する山上助手

第41回 甲北信越矯正歯科学会学術大会
広島県福山市ご開業
小川晴也先生を招き特別講演
「Ⅱ級1類の矯正治療を再考する“6 keys”」

7月5日（日）、松本歯科大学歯科矯正学講座が大会事務局となり、第41回甲北信越矯正歯科学会学術大会が本学図書会館にて開催された。

今回の学術大会は「難治症例における矯正歯科治療について再考する」というテーマのもとシンポジウムが開かれ、3人のシンポジストによる発表の後、活発な討議が行われた。

また、特別講演では、広島県福山市でご開業の小川晴也先生をお招きし「Ⅱ級1類の矯正治療を再考する〝6 keys〟」と題してご講演いただいた。小川先生は、近年国内各地で講演を行われており、治療後における質の高い症例結果のみならず「長期安定」に焦点を当てた内容が多く好評を得ている。今回の講演は、Ⅱ級1類症例における治療後の長期安定を獲得するためのポイントを6つ挙げ、それぞれについて治療症例をもとに詳細な説明をされた。聴講者にとって、日常の臨床において大変有意義な内容であった。

さらに、大会では学術口演2題、症例展示では一般18題、認定医更新症例3題の発表と共に、日本矯正歯科学会より玉置幸雄先生をお招きし、認定医制度における取得・更新や指導者への詳細な説明が行われた。該当者にとっては、資格取得のため直接役に立つ貴重な内容であった。また、1階フロアでは11社による商社展示が行われ、多くの参加者で賑わっていた。今回の学術大会では、183人の参加者数があり無事成功裡に閉会となった。

特別講演を行った小川先生（左）と筆者

甲北信越矯正歯科学会は、主に新潟、富山、石川、長野、山梨県を中心として1986年に発足し、現在会員数約330人を有する地区学会である。来年は、7月4日（日）に新潟大学が主幹となり同大学において第42回学術大会が開催予定である。

（第41回学術大会大会長　5期生　髙木伸治）

第2学年分子生物学
元・国立研究開発法人
海洋研究開発機構上席研究員
加藤千明先生が講義
「極限環境微生物の発見と応用・深海微生物の研究展開」

6月25日（木）、第2学年分子生物学の講義は非常勤講師の加藤千明先生にご担当いただいた。先生は前職が国立研究開発法人海洋研究開発機構上席研究員で、深海微生物の研究に従事され、大深度無人潜水調査船「かいこう」を使ってマリアナ海溝へ潜り込み、超絶対好圧菌（500気圧以下では生育しない細菌）を発見しておられる。

講義では「極限環境微生物の発見と応用・深海微生物の研究展開」と題し、高圧下の生命に関するこれまでの研究成果から難分解性のプラスチックごみによる身近な海洋汚染の問題まで、幅広いご経験に基づいてお話しくださり、学生たちは熱心に受講していた。

深海微生物の研究について語る講師の加藤先生

講義には、同機構勤務時代の同僚の佐藤孝子先生も同行された。お二人とも米国留学先でミュータンス菌の分子生物学を学んでおり、同窓には、初診室（総合診断科、総合診療科）の音琴淳一教授、微生物学講座の吉田明弘教授がおられるなど、本学には縁のある先生方である。

佐藤先生は、未来の研究者を目指す子どもたちに深海生物の魅力を伝えるべく絵本や図鑑も出版されている。さらに同機構を退職された加藤先生と共にNPO法人「チームくじら号」を立ち上げ、全国を回って絵本の読み聞かせ、海洋プラごみ問題やマイクロプラスチックの環境汚染問題の啓蒙活動などを展開され、未来の科学者の発掘をされておられる。お二人とも、平岡の出身研究室の同期・同窓という縁で本学にお招きした。

今回はシンガーソングライター・さと　さとみさん、本の朗読担当の高橋明美さんにも同行いただき、総勢4人のキャラバンで、賑やかな90分を披露していただいた。普段聴けない内容の話をしてくださり、学生諸君からは好評を得た。締めくくりには、「人新世の時代にいかに生きる？」「プラスチック分解性微生物の探索」「未来のエネルギー」へと話題を展開し、クリーンエネルギーの普及を訴える「東京バイオ発電所♪」の歌をさとさんが歌い、手拍子と踊りを交えて学生と共に楽しんだ。

（大学院歯学独立研究科長　総合歯科医学研究所　特任教授　平岡行博）

首相が休日を 高級ホテルで過ごす 本当の理由

内閣官房参与
松本歯科大学理事（特命）
特命教授
飯島 勲

今月号では『プレジデント』８月14日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、「首相が休日を 高級ホテルで過ごす 本当の理由」の記事を要約して紹介します。

間もなく夏休みシーズンだ。読者の皆さまも、旅行やレジャーなどのイベントを楽しみにしているかもしれない。

こうした大型連休のとき、たまにニュースとなるのが、首相のホテル泊だ。首相が自宅に帰らず、公邸にも留まらず、わざわざ都心のホテルに泊まって休日を過ごす、という話だ。首相が祝日をホテルで過ごすと、「庶民感覚とかけ離れている」と批判されることが多い。

私に言わせれば、これはむしろ、よく考え抜かれた振る舞いなのである。今回は、この一見不可解な「首相のホテル泊」の秘密を、読者に解説したい。

私が首席秘書官として小泉純一郎首相に仕えていたころも、長い休みの過ごし方には頭を悩ませた。当初は、箱根のような行楽地でゆっくりしてもらう案もあった。だが、これはすぐに引っ込めた。首相が遠出をすれば、警備にあたる警察官や段取りをするスタッフが慣れない土地に大挙して張り付くことになる。事前の現地調査も必要になるし、関係各所との連携も必要になる。スタッフにとっては休みどころか、過酷な出張になってしまう。そこで、都心のホテルに腰を落ち着けてもらう、という形に決まったのである。つまり、首相が都内のホテルで休むのはスタッフたちを休ませるという理由が最も大きい。トップが動かないことが、そのまま何十人もの休息になるのだ。連休返上で働きづめの官邸にとって、これは何よりの「首相の気配り」なのである。

付け加えれば、トップが体調を守ることも、立派な危機管理である。首相が疲労をためて倒れれば、それだけで政治は止まり、国政に空白が生まれる。「体調管理もできない首相」という批判も生まれ、支持率にも影響が出るかもしれない。しっかり休んで英気を養ってもらうのは、本人のためというより、国のためなのだ。

トップとして激務の中で体調を守ることも危機管理の一環　閣議の高市首相（中央）

「それでもホテルはもったいない」という人もいるかもしれないが、よく考えてみてほしい。首相が外を出歩けば、警備は分散し、動員される人員も車列も膨れ上がる。ホテル代だけを取り上げれば高く見えるが、周辺にかかる費用まで合わせて考えれば、むしろ安くつくことのほうが多い。

たとえばアメリカの大統領には、キャンプ・デービッドという専用の保養地がある。ホワイトハウスから90キロメートルほど離れた森林地帯にある建物で、保安上の理由からかどのような施設があるかは分からないものの、歴代の大統領は頻繁に訪れていることから、なかなか居心地のいい場所なのではないかと思う。同様にイギリスにも、チェッカーズという公式の別荘がある。こちらもロンドンから北西に約60キロメートルと、なかなか好立地だ。このように、人目を気にせず英気を養える場所が国として用意されている場合もある。

しかし日本の場合、執務室に隣接した公邸があるだけで、そうした保養施設はない。だとすれば、警備と危機管理の条件を満たしたうえで静かに休める場所は、現実には都心のホテルくらいしか残らない、というわけである。日本にも海外のような保養地があれば、と思わなくもないが、この狭い日本ですぐに官邸へ戻れるアクセスのよさと、警備のしやすさの両方を満たす場所がないというのが現実かもしれない。

とにかく、表に出た金額の大きさだけを見て「贅沢だ」と決めつけないでほしい。首相がホテルへ泊まることで、その裏でどれだけの人手と費用が節約され、どれだけのスタッフの気力と体力が補充されるかということを考えてほしい。スイートルームだったとしても「むしろ安い」といえるだろう。そこまで考えてから損得を語ってほしいものだ。

高市早苗首相は週末を公邸で過ごすことが多いが、今年の夏はどこで休むのだろうか。その場所と休み方から、首相の考えを察することができるかもしれない。このような視点でニュースを見てみると、一歩進んだ目線で政局を見ることができるだろう。

剣道部が東京歯科大学交流試合に臨む

～53年におよぶ親睦さらに深まる～

交流試合に臨んだ両大学剣道部員ら

東京歯科大学と本学との剣道部交流試合が７月11日（土）・12日（日）の2日間、千葉市内で開催され、参加した。この交流試合は、１９７２年（本学開学）の夏に当時の顧問、加藤倉三先生（第二代学長）のご紹介で諏訪市内において合宿中の東京歯科大学剣道部に本学剣道部（当時の主将＝伊地知 明先生）が合流し、稽古や試合をしたことが発端となっている。今日まで53年間も継続する伝統ある交流試合で今年度は、本学の剣道部員が東京歯科大学千葉歯科医療センター体育館（千葉市美浜区）に遠征する形で実現した。

1日目は千葉中央駅前で交流会が開催された。千葉県警察本部剣道副主席師範で東京歯科大学剣道部師範の鈴木剛先生（教士八段）、部長の村松 敬先生、山根源之先生、森永一喜先生、監督の花上健一先生、鎌田政一先生、そして我が剣道部部長の金銅英二先生（衛生学院長）のご臨席の下、東京歯科大学剣道部6人、本学剣道部7人が参加し、親睦を深めた。

2日目の朝からは保坂 誠先生、宝田太郎先生、木住野凱太先生、本学衛生学院OGの松沢舞先輩もご参加くださり、白熱した交流試合が展開された。その後はOB合同での稽古会、記念撮影、和やかな昼食会を経て今夏の歯学体での両大学の健闘を祈りながら散会となった。

来年度の交流試合は本学での開催となる。今回の経験を生かし、部員一丸となり開催できるよう頑張ろうと思う。この2日間、大変お忙しい中、伝統ある交流試合に駆け付けてくださった部長の金銅先生、松沢先輩に感謝申し上げます。

（剣道部主将　第3学年　菅原夢叶）

同期生だから分かり合える存在を改めて認識

21年ぶりの再開！ 28期生同窓会を開催

7月19日（日）、二十四節気の大暑を目前に控え、夏休みを待ちわびる子供たちの賑やかな声が街中に響く東京にて、本学28期生同窓会が開催された。日本各地から21年ぶりに36人の同期生が品川プリンスホテルに集まり、また大学から来賓として我々の学年主任であった山本昭夫特任教授、副主任の黒岩昭弘教授、学生時代に大変お世話になった金銅英二教授、内田啓一特任教授をお招きし、総勢40人にて15時より開式した。

まず同窓会準備委員長の加藤寿太郎先生（愛称＝ジュタ）から本会開催についてのあいさつがあり、来賓を代表して山本特任教授から祝辞をいただいた。黒岩教授の乾杯のごあいさつで賑やかに開会し、加藤先生の最新一眼レフカメラにて集合写真を撮影。21年ぶりの再会を喜びながら旧交を温め、互いの近況を語り合い盛り上がった。

恩師の先生を囲む 28 期生 36 人の出席者

会中盤には金銅教授、内田特任教授より28期生との思い出話や、大学の近況についてお話を伺った。それぞれ様々な経験を積み重ねた面々も、学生時代の顔に戻り笑顔で歓談が進んだ。

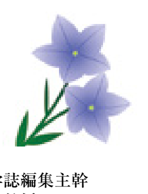
最後に、同窓会幹事代表の安東信行先生（愛称＝あんちゃん）のあいさつで閉会となった。

同期生との再会は、言葉を交わすまでもなくただ顔を見、言葉の代わりに静かに微笑み返しを送ってくれる存在を改めて認識できた貴重な時間だった。

次回は4年後を目処に開催したいと今回参加した同期生で話し合っている。不参加だった同期生も、ぜひ次回は参加していただければ幸いに思う。同期生一同並びに母校の先生、職員、学生、卒業生の皆様の今後の人生に幸多きことを祈念し28期同窓会の報告とさせていただく。

（本学臨床教授　28期生　荒井 敦）

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授
笠原 浩

痛みと歯科医療⑩

１８９９年にドイツのバイエル社が売り出したアスピリンが、効果的な解熱鎮痛剤として大当たりとなったことを前回に書きました。それに刺激されたライバルのヘキスト社は、傘下の化学者たちを督励して、新薬の開発に取り組み始めました。

彼らが目を付けたのは、同国のエアランゲン大学の化学者クノールが、キノリン類の合成を研究していて、１８８３年に発見したジメチル・フェニル・ピラゾロンで、解熱鎮痛作用が認められていましたので、アスピリンへの対抗意識もあらわにアンチピリンと命名して売り出したのです。

ピラゾロン誘導体からは次々に解熱鎮痛剤が開発されました。１８９７年には同大学のフィレーネがアンチピリンの3倍強力なアミノピリンを作り出し、これもヘキスト社から発売されました。１９２２年に特許が取得されたスルピリンはさらに強力で、速効性もあり、皮下注射や筋肉内注射としても使えたので、一時期には高熱を発した小児などに広く用いられていたものでした。

こうしたピラゾロン誘導体の医薬品は「ピリン剤」と総称されています。意外なことに、アスピリン（アセチルサリチル酸）は、いわゆる「ピリン剤」には含まれないのです。「ピリン剤」にもアスピリンにも、アレルギーがある人がいて、ときにはアナフィラキシーショックで死亡することもあり得ますが、かならずしも共通しませんし、そもそも化学構造が違います。

「ピリン剤」には他にも厄介な副作用が少なくはありません。ショックを生じやすく、稀とはいえ致命的な無顆粒球症の可能性もあります。１９５９年に「辛い風邪症状を一発治す」とアミノピリンとスルピリンを配合したアンプ内服液によるショックで38人の死者を出したことがきっかけで、これらの薬剤は現代ではほとんど使われなくなりました。

もう一系統の解熱剤であるアセトアニリドは偶然によって発見されました。１８８６年、ドイツのストラスブルグ大学の内科医たちが、当時から防腐剤として使われていたナフタリンを腸疾患の患者に応用することを考えつき、熱性腸カタルの患者に投与してみたのです。実は内服させた薬は薬局の手違いで、ナフタリンではなく、アセトアニリドでした。不思議なことに患者の熱は下がり、容態は快方に向かったのでした。

内科医の一人の兄が、化学者のヘップでしたので、１８５２年にジェラールが初めて合成したアセトアニリドの優れた解熱・鎮痛作用が証明され、アンチヘブリンの商品名で市販され、さらにその改良品であるフェナセチンが１９９０年代には広く使われました。しかしながら、本剤は大量を長期にわたって使用すると腎障害を生ずることが明らかになり、現在ではアセトアニリドの代謝産物であるアセトアミノフェン（商品名カロナール）が非ピリン系鎮痛剤の主力となっています。

第101回 松本歯科大学学会を開催
第1学年のオープンセミナーからも3演題の発表

第101回松本歯科大学学会が7月2日（木）、本館1階西棟学生ラウンジにおいて開催された。ポスター発表形式で行われ、集まった人たちは1題ずつ熟読したり、ポスター前に立つ発表者に質問したり、会場は、教員や学生などの立場を超えて活発な議論や情報交換の場となった。優れた発表には優秀発表賞と、これまでの特別賞を改め新設されたチャレンジ賞、イノベーション賞、チームワーク賞の3つの賞を贈り、研鑽を称えた。

11 演題のポスター発表を熱心に見学する学会参加者

今回の学会ではポスター発表形式で11演題の発表があった。本学会では大会の発展と向上を目的として優秀発表賞、特別賞を設定しているが、今回から新たな試みとして特別賞に代わりチャレンジ賞、イノベーション賞、チームワーク賞が新設された。これらの賞を考案した集会幹事長の川原一郎教授から「テーマを分かりやすくしたタイトルをつけることで賞を取りに行くことや、研究を積極的に行って頂きたいという意味を込めている」との意図が伝えられた。

今回は臨床研究および症例報告が主であるが、第1学年のオープンセミナーから3演題の発表があった。学会には多数の大学院生や研修歯科医、教員が参加し、活発な質問・討論が行われた。学会評議員の審査・投票により各賞が選ばれ、表彰式が行われた。総評では、大学院歯学独立研究科長の平岡行博特任教授が「学部の第1学年生が3演題も出しており驚いた。研究および発表の楽しさを知り、高学年になっても発表していただきたい」と期待を込めて激励していた。

次回の第102回学会は11月26日（木）にポスター発表による自由討論として、開催を予定している。

受賞者と演題は次の通り（敬称略）

▽優秀発表賞：廣　理芽ら「Angle 不正咬合分類別の上顎大臼歯歯軸傾斜角と咬合接触面積の関連性」

▽チャレンジ賞：三浦貴人ら「肥満と歯周炎症表面積 PISA および口呼吸との関連」

▽イノベーション賞：望月正博ら「オープンセミナー：AIについて考えよ－ディープラーニングを用いたスマホ連動型プラーク可視化システムは可能か：歯科AIの未来展望」

▽チームワーク賞：堀川翔愛ら「オープンセミナー：AIについて考えよ－歯科医療におけるAIと最新テクノロジーの活用：未来のクリニック構想」

（学会庶務幹事長 薬理学講座 教授　荒　敏昭）

病院だより vol.76

健診センター
自分に合った健診で 一歩先行く健康管理を

皆様、定期的に健康と向き合えていますか。「不調がないから大丈夫」と思っていても、自覚症状のないまま身体の変化が進んでいることは少なくありません。松本歯科大学病院健診センターでは、皆様がいつまでも健やかに暮らせるよう、ライフスタイルに合わせた多彩な人間ドックをご用意しております。

今回は「健康診断と人間ドックの違い」や、当センターの特徴的なコースをご紹介します。

▼健康診断と人間ドックの違い

一般的な「定期健康診断」は法律で定められた基本項目を中心に検査します。一方「人間ドック」は、定期健診をベースに、がんや生活習慣病を早期発見するための専門的な検査が多く追加された充実のパッケージです。通常の健診だけでは隠れたリスクを網羅するのは簡単ではありません。「体調の変化が気になる」「一度全身をしっかり調べて安心したい」という方には、人間ドックがお勧めです。検査後に医師による丁寧な説明があるため、ご自身の健康状態を深く把握できるメリットもあります。

▼ライフスタイルに寄り添う5つのコース

当センターでは、目的や時間に合わせて選べる5つのコースをご用意しています。基本となるのは、短時間で効率よく全身をチェックできる「半日ドック」です。これをベースに、早期発見が難しい膵臓疾患にフォーカスした「膵臓ドック」もございます（Aコースは膵MRI検査、Bコースは膵超音波検査となります）。宿泊コースの「1泊ドックベーシック」は、半日ドックに糖負荷検査や運動指導などを追加し、生活習慣病の予防・改善に主眼を置いています。そして最上位の「1泊ドックプレミアム」は、ベーシックの内容に膵臓ドックのAコースとBコースの検査をどちらも組み込んだ膵臓疾患やがんの検査を網羅した安心のフルコースです。さらに、全コースに歯科大学病院の強みを生かした「歯科検診」が標準で組み込まれており、お口の健康までトータルにケアできるのが大きな特徴です。

モニターを確認しながら行う内視鏡検査の模様

▼当センターならではのこだわり

全コース共通で「胃内視鏡検査（胃カメラ）」が標準検査となっており、経鼻・経口の選択が可能です。また、受診後には院内の「中華レストラン」または「フレンチレストラン」から選べる充実したお食事をご用意しており、健診後のひとときをゆったりとおもてなしいたします。

健康管理の第一歩は、まず「知る」ことから始まります。ご自身に最適な人間ドックをぜひご活用ください。皆様のご来院を心よりお待ちしております。

（健診センター 臨床検査室 臨床検査技師 副主任　宍戸淑子）

総合歯科医学研究所・岩本莉奈助教
基礎研究において優秀演題賞を受賞
第44回 日本骨代謝学会学術集会

第44回日本骨代謝学会学術集会が7月2日（木）から7月4日（土）まで、千葉県浦安市の東京ディズニーリゾートに隣接するホテルオークラ東京ベイで開催された。日本骨代謝学会は、骨代謝領域の基礎・臨床の両面から、新たな治療戦略や分子基盤を切り拓く学会であり、発足から44年となる。今年は700人以上の参加者が集い、本学からは、小出雅則准教授、中道裕子准教授、石田昌義講師、何治鋒助教ら多くの教員および大学院生が発表・議論を行った。

岩本莉奈助教（総合歯科医学研究所）と高橋拓実助教（総合歯科医学研究所）は、今回の学術集会において優秀演題賞選考セッションに採択され、岩本助教が「血管内皮細胞RANKシグナルはIL-1βを介して骨の老化を駆動する」、高橋助教が「PTHによる骨形成作用における骨髄間質細胞由来Wntの役割」という内容で発表を行った。講演後の選考委員会による審議の結果、岩本助教が基礎分野において優秀演題賞を受賞した。

優秀演題賞を受賞した岩本助教（左端）、右から井上大輔大会長、高柳　広理事長

岩本助教は、破骨細胞分化・活性化に重要な役割を担うRANKLシグナルが亢進しているOPG（Osteoprotegerin）遺伝子欠損マウスにおいて、骨髄の老化表現が見られることを見出した。また、中年で増加する骨髄のRANK陽性細胞が血管内皮細胞であることを明らかにした。

これらの知見から、血管内皮細胞特異的RANK欠損マウス（EC-RANK cKO）を作出したところ、中年EC-RANK cKOでは、加齢による骨量減少が見られなくなり、骨芽細胞が増加していることを明らかにした。加えて、中年で見られる老化細胞蓄積・ミエロイドバイアスが、中年EC-RANK cKOにおいて改善されていることを明らかにした。これらの老化現象が中年マウスでなぜ認められ、EC-RANK cKOでなぜ見られなくなるのか明らかにするために、若年・中年・中年EC-RANK cKOマウス骨を用いてbulk-RNAseqを行った。最終的に、分泌遺伝子の中で若年骨と比較して中年骨で増加し、中年EC-RANK cKO骨で減少したサイトカインIL-1βをRANKシグナルの下流のドライバー因子候補とした。そこで、IL-1β中和抗体投与を行った結果、骨髄の老化細胞が顕著に減少し、ミエロイドバイアスが改善されることを明らかにした。講演では多くの質問があり、活発な質疑応答が交わされた。

第58回 歯学体 夏期部門が開幕
10競技部門の健闘祈る！

第58回全日本歯科学生総合体育大会（全日本歯科学生体育連盟主催、スポーツ庁後援、九州大学歯学部事務主管）の夏期部門は7月31日（金）から8月11日（火・祝）まで、全国各地で開催されている。本学からは、準硬式野球、硬式庭球、サッカー、ゴルフ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、剣道、弓道、水泳の10の競技部門に出場している。

全国29の歯科大学や歯学部の学生が、スポーツを通じて互いに交流を深めることを目的とする大会で、今年の夏期部門は22の競技部門で行われる。本学の学生たちも大会に向け、勉強の合間を縫って練習に打ち込んできた。持てる力をすべて出し切った成果に期待が高まる。

第58回 全日本歯科学生総合体育大会夏期部門日程（本学が出場する部門のみ掲載）

部門名 ＼ 月日	8/1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	会場名
準硬式野球（徳島大学歯学部）								●	●	●	●	南山スポーツ公園野球場 千里ケ丘球場、マツゲン有田球場
硬式庭球（日本大学松戸歯学部）		●	●	●	●	●	●					白子テニスコート
サッカー（愛知学院大学歯学部）		●	●	●	●	●	●					伊勢フットボールヴィレッジ
ゴルフ（北海道大学歯学部・北海道医療大学歯学部共同）			●	●	●							札幌芙蓉カントリー倶楽部
バドミントン（九州大学歯学部）			●	●	●	●	●					福岡市総合体育館（照葉積水ハウスアリーナ）
バレーボール（大阪歯科大学）				●	●	●	●					おおきにアリーナ舞洲
バスケットボール（九州大学歯学部）				●	●	●	●	●	●			粕屋町総合体育館
剣道	●	●										江戸川区総合体育館
弓道（福岡歯科大学）						●	●	●	●			福岡武道館
水泳（東京科学大学歯学部）				●	●	●						横浜国際プール

《開会式：7月31日㈮》　●：試合日

全日本歯科学生体育連盟 公式ホームページ QR コード

大会告知ポスター

Alumni News
――松本歯科大学校友会――

奈良県支部　役員会・支部総会・懇親会を開催
支部の財政状況や活動実績を報告
来年は会員全員が元気に集うことを願って閉会

6月28日（日）、奈良県橿原市にある、橿原神宮近くのホテルにおいて、校友会奈良県支部の役員会ならびに総会が開催されました。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、足元の悪い中にもかかわらず多くの先生方に出席していただけました。

総会は、副支部長である岩城克安先生（9期生）のあいさつから始まり、続いて審議事項、会計報告、事業報告の順に説明がなされました。支部の財政状況や過去1年間の活動実績についての報告も行われました。

当日は山本賢俊支部長（17期生）が、右肩の腱板断裂整復手術の直後であったため、欠席されました。山本支部長の体調を心配する声も多く聞かれましたが、術後は順調との報告があり、会員一同胸をなでおろしておりました。

会員全員の健康を祈念して記念撮影

総会終了後には、このホテルにて懇親会が催されました。懇親会では、今回の保険改定に伴う診療報酬や保険制度の変更点についての意見交換が行われ、さらに互いの近況報告や学生時代の思い出話にも花が咲き、和やかで温かい雰囲気の中、交流が一層深まりました。

山本支部長の手術の話題から、会員の手術や入院体験談へと話が広がり、ある先生からは「右肩の術後、全身麻酔から覚めてわずか2時間で退院し、翌日から診療を再開したものの激痛で倒れ、結局縫合し直すことになった」という恐ろしい体験談をおうかがいいたしました。

最後には、来年は会員全員が元気な姿で再び集まることを約束し、和やかな空気のまま閉会となりました。

（奈良県支部　21期生　新名浩三）

愛知県支部　支部総会・時局講演会・懇親会を開催
愛知県歯科医師会会長 池山正仁先生がご講演
「愛知県歯科医師会の持続的可能な成長」

愛知県支部総会・時局講演会・懇親会が5月31日（日）、名古屋市の名古屋クラウンホテルにて開催されました。

総会では、この1年の物故者への哀悼の意を捧げ、7つの委員会より2025年度事業報告および決算報告、2026年度事業計画および事業予算の4議題のご承認をいただきました。

総会に続いて、昨年7月に愛知県歯科医師会会長にご就任されました池山正仁先生より「愛知県歯科医師会の持続的可能な成長」の時局講演を賜りました。

池山先生は、愛知県だけではない、歯科界の山積する課題に対し、一つ一つ丁寧にお話しくださり、今期の執行方針をお示しくださいました。

懇親会では、校友会本部より矢ヶ﨑　雅会頭・会長、原田寿久専務理事にご多忙のところ遠方よりご臨席賜りました。

矢ヶ﨑会長のご挨拶の中には、学内の動向や在学生のお話もあり、卒後数十年経っている先生方の中には懐かしさと郷愁に浸っている方もいらっしゃいました。

当支部初代会長、吉田勝弘先生（1期生）と長年に亘りご親交がある日本歯科医師会副会長の内堀典保先生にもご臨席賜り、日歯の動向のお話もいただきました。

懇親会初参加の若手会員の先生方からの自己紹介などもあり、総勢57名の盛会となりました。

（愛知県支部　専務理事　16期生　糸山　暁）

来賓・本部役員・支部会員、総勢57名の出席者

市内中学生が本学病院で職業体験
医療系職業希望者5人が歯科治療や健診などを学習

本学病院は中学生の職業体験学習を毎年受け入れており、今年は7月1日（水）に塩尻市立広陵中学校2年生の3人、7月22日（水）に塩尻市立丘中学校2年生の2人が訪れた。

実際の職場での体験や働いている人とのコミュニケーションを通して、働くことの楽しさや難しさを学び、将来の夢や希望などを踏まえて進路を決定する機会の一環として行われている。本学には事前アンケートで医療系への職業体験を希望した生徒が例年来学している。

生徒たちは両日とも、午前中は初診室エリアにてマネキンを用いてのコンポジットレジン修復や生徒相互での上顎前歯部の印象採得および石膏の盛り付けといった実際の歯科治療を体験した。その後、応接室にて用意してきた質問などに筆者が答える場面では、進路選択の動機や仕事のやりがいといった現在の仕事に関することだけでなく学生時代の生活など幅広く質問を受けた。

健診について宍戸副主任の説明を聞く中学生

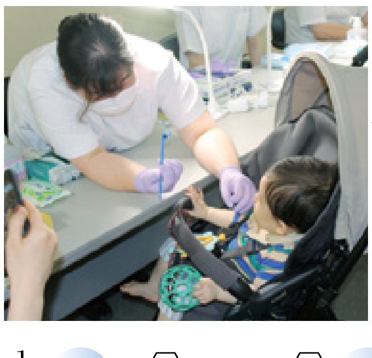
昼食を挟んで訪れた健診センターでは、臨床検査技師副主任・宍戸淑子さんの指導でエコーなどを使い普段やったことのない健診を体験した。次いで薬局の薬局長・山﨑三恵子さんのもとで薬剤の包装について見学し、調剤の体験を行った。

生徒たちからはそれぞれ「初めてのことだらけでどの体験も楽しかった」などといった感想をもらうことができた。この職業体験が彼らの今後の職業選択などの一助になったのであればよかったと感じた。

（薬理学講座　講師　喜多村洋幸）

来場者に歯科健診や歯科相談、歯みがき指導を実施
おさんぽフェスに「歯科相談コーナー」を出展

子供連れの家族などが松本市の中心市街地を巡り、さまざまな体験を楽しむイベント「おさんぽフェス」（ママフェスまつもと主催、松本市、塩尻市ほか後援）が7月4日（土）、松本市中央公民館（Mウイング）や市立博物館など、会場ごとにテーマを変えて全7会場で開催された。本学もイベントに協力し、「あかちゃんひろば」をテーマにしたMウイング会場にブース「歯科相談コーナー」を出展、お口の健康の大切さを詳しく、分かりやすく、実践を交えて伝えた。


幼児の歯科健診をする本学スタッフ

歯科医師3人と歯科衛生士2人が笑顔で来場者を待ち受け、訪れる人の希望に合わせて歯科健診や歯科相談、歯みがき指導をした。「歯が生え始めたばかりでどこから手入れをしたらいいのか分からない」「なかなか歯が生えてこないので心配」など、子供連れの家族からはさまざまな悩みや疑問、不安が寄せられ、スタッフが一人一人に丁寧に対応していた。ブース内の販売コーナーでは、歯科衛生士から教わった選び方の要点を踏まえて、歯ブラシを選ぶ人の姿も見られた。今回は、衛生学院の第3学年の4人もボランティアで参加し、ブース内の案内や、子供への声掛けなどで活躍した。

本学は、地域の人たちに歯や口腔内の健康を守る大切さなどを伝える活動の一環で、毎回このイベントに出展している。今回も約70組の親子が訪れ、好評のうちに終了した。

新刊紹介
『アライナー矯正治療：顎顔面機能の再構築』

大学院歯学独立研究科硬組織疾患制御再建学講座の岡藤範正教授と横井由紀子准教授、筆者はこのたび、13人の専門家とともに『アライナー矯正治療：顎顔面機能の再構築 ―Aligner Orthodontics and Orofacial Orthopedics』を歯科専門出版「クインテッセンス出版」から刊行した。本書は、アライナー矯正治療の技術発展に多大な貢献をしてきた臨床歯科医Werner Schupp先生、Julia Haubrich先生による原著を翻訳・編集したもので、3人は監修と統括を担当した。

近年、アライナー矯正治療は急速に普及しているが、本書では歯列を整えることだけを目的とするのではなく、顎顔面機能、顎位や咬合を総合的に捉え、「機能と形態の調和」を実現する包括的な治療理念を分かりやすく解説している。豊富な症例や図版を交えながら、診断から治療計画、保定までを体系的に示しており、日常臨床に直結する実践的な内容となっている。翻訳・編集にあたっては、原著の学術的価値と臨床的メッセージを損なうことなく、日本の歯科医療環境や教育現場に適した表現となるよう検討を重ねた。

岡藤教授は「近年、歯科医療ではデジタルワークフローと機能的アプローチを融合した包括的診療が求められています。本書が、学生・研修医をはじめ、矯正歯科医、一般臨床医、歯科衛生士など多くの歯科医療従事者にとって、診療の質の向上や新たな学びにつながる一冊となれば幸いです」と話している。

A4判変型、カラー全648ページ、定価51700円。

（病院初診室（総合診断科・総合診療科）講師　髙谷達夫）

左から、岡藤教授、横井准教授、筆者

8月行事予定

1日(土)　一日体験入学（歯学部）
9日(日)　一日体験入学（歯学部）
20日(木)～21日(金)　演習Ⅱ（第6学年）
24日(月)～9月4日(金)　定期試験（第1～3学年）
26日(水)　大学院発表会

人事異動

7月1日付
【採用】
中野　裕子（事務局大学病院事務室事務員（契約職員））
本田　結女（事務局学事室事務員（契約職員））
室賀なつえ（事務局衛生学院事務室事務員（契約職員））

7月1日付
【配置換】
小松　弘章（事務局庶務課係長）

受験生の皆さんへ

見せてほしい　君の個性　君の情熱

一日体験入学

①8月 1日(土)　②8月 9日(日)
③9月 6日(日)　④10月18日(日)
※8・9・10月開催分のみ掲載

開催時間 9：30～15：00（受付 9：00～）
●キャンパスツアー　●ランチ体験
●模擬実習　●入試説明　●進学相談など

※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。

■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学　入試広報係
www.mdu.ac.jp

Matsumoto Dental University SNS Information

LINE　X　Instagram　facebook